

議会だより



小谷村の農業、全国に発信 全国棚田サミット開催

平成29年度 決算認定……………②～③

村長提出議案・請願・陳情の審査・議員発議……………④～⑤

総務・経済委員会活動報告……………⑥

一般質問・村政を問う……………⑦～⑬

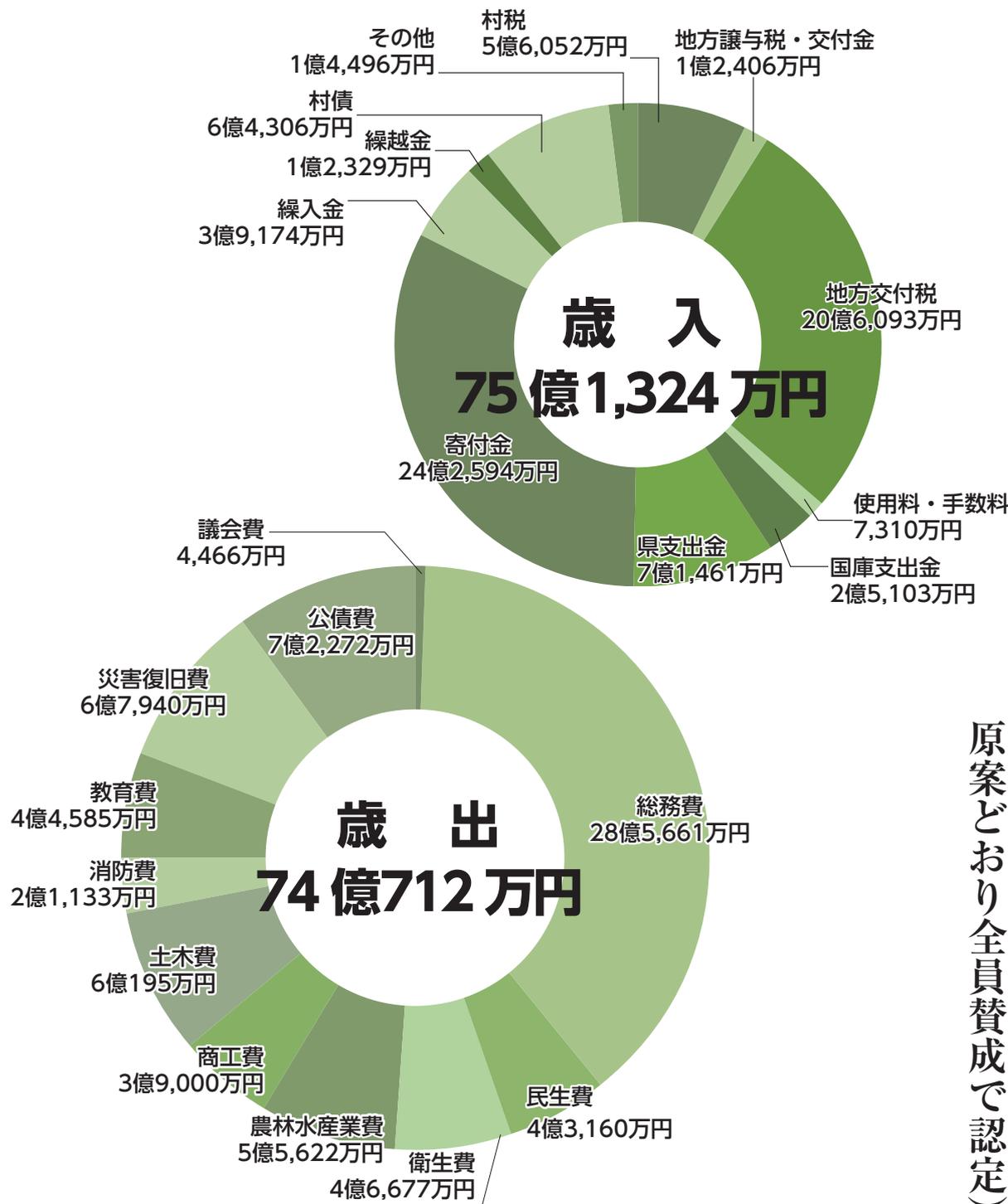
わたしのひとこと(水野聡子さん・松澤和也さん)……………⑭



9/23(日) 保育園運動会

平成29年度決算認定

(決算特別委員会において審議し、
原案どおり全員賛成で認定)



29年度決算監査報告抜粋

代表監査委員 松澤 米雄

審査の結果 審査に付された決算書、同事項別明細書等は、関係諸帳簿及び証拠書類と符号しており、誤りのないことを認めた。基金の運用も適正に処理されていると認めた。予算執行について 村税に対しては、新たな滞納額を増やさない取り組みが認められるが、依然県下下位を推移しているため、引き続き積極的な徴収対策に努められたい。国民健康保険特別会計 収入未済額は減少しているが、解消に努められたい。公共下水道事業特別会計 受益者分担金の収納は、不公平感が生じないよう適切に処理されたい。農業集落排水事業特別会計 引き続き収入未済額の解消に努められたい。その他 ふるさと応援寄付金の無駄のない運用に努め、潤沢な財源があるような誤解を生じないよう職員一同認識を共有されたい。

委員会構成の変更 経済委員会

委員長 吉澤 学	副委員長 北村 利幸
委員 曾根原恵子	横澤かつ子 宮澤 正廣
議会広報委員会	
委員長 猪股 充弘	副委員長 太田 武彦
委員 吉岡 久人	藤原 賢司 北村 利幸

29年度決算の概要

29年度の主な事業は

- ふるさと応援寄付基金積立金 12億310万円
- ごみ処理広域化推進負担金 2億7,861万円
- 54プロ推進事業 9,741万円
- 農業機械整備（トラクター・そばコンバイン2台・グランドロータリー） 2,399万円
- 柵池自然園木道整備・遊歩道整備 4,012万円
- 道路除雪事業費 2億6,561万円
- 除雪機械整備（11t級ドーザ1台） 1,325万円
- 小谷中学校パソコン整備 1,942万円

基金 総額は 56億7,621万円

- 財政調整基金 19億4,322万円
 - 公共施設整備基金 6億7,593万円
 - ふるさと応援寄付金 24億3,091万円
 - スポーツ振興基金 1億2,826万円
 - 福祉基金 1億5,241万円
- （年度末残高額が1億円以上の基金）

前年比約8億2,000万円の増額。ふるさと応援寄付基金の増額による。

- ※ 村営水道施設整備基金（飲供）を村営水道施設整備基金（簡水）へ統合。
- 飲料水減価償却費積立金を減価償却準備基金（簡易水道事業特別会計）へ統合。

質疑の一部

- Q 除雪費に対して国庫補助などは？
- A 社会資本整備交付金のほか、普通交付税に雪寒補正として上乘せされており、特別交付税には道路除雪分として配分されている。
- Q 公共下水道施設の分担金の不能欠損分には、住民の不公平感がある。寄付金としての収入見込みは？
- A あくまでも寄付金であるので、催促等できない。寄付の申し出をいただいている方には、ご協力をお願いしたい。
- Q ゴミ袋が広域化によって統一されたが、ゴミ袋の価格は？
- A 価格の統一は、公正取引の観点に違反するため、価格は小売店が決定する。これまで使っていた、小谷村指定のゴミ袋よりも安価。

会計区分	歳入	歳出	歳入歳出差引残高
一般会計	75億1,324万6,248円	74億711万6,108円	1億613万140円
国民健康保険特別会計	4億4,260万8,934円	4億4,218万4,413円	42万4,321円
国民健康保険診療施設特別会計	9,701万7,511円	9,695万6,586円	6万925円
簡易水道事業特別会計	1億7,478万7,346円	1億7,347万7,469円	130万9,877円
公共下水道事業特別会計	9,243万1,144円	9,207万8,577円	35万2,567円
農業集落排水事業特別会計	7,893万4,727円	7,875万4,281円	18万446円
後期高齢者医療特別会計	3,906万5,041円	3,894万4,641円	12万400円

補正予算・報告事案等を審議

7月臨時会 村長提出議案

件名	内容	審議結果
平成30年度 小谷村一般会計補正予算（第3号）	2億9,700万円減額 総額55億800万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）	4,950万円追加 総額1億4,630万円	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結について（鐘の鳴る丘村営住宅整備工事）	金額 3億2,400万円 契約 ヤマウラ・鷺澤・県特定建設工事共同企業体	可決 (全員賛成)

9月定例会 ◇専決処分等報告

件名	内容	審議結果
平成30年度 小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）の専決処分報告	1,500万円追加 総額1億6,130万円	承認 (全員賛成)
出資法人の経営状況報告（おたりアセット）	当期純利益 -1,792,750円	(報告のみ)

◇村長提出議案

件名	内容	審議結果
小谷村税条例等の一部を改正する条例について	地方税法等の一部を改正する法律の施行に伴い、たばこ税についての改正。	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村一般会計補正予算（第4号）	2億1,700万円追加 総額57億2,500万円	可決 (賛成多数)
平成30年度 小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	580万円追加 総額3億6,730万円	可決 (賛成多数)
平成30年度 小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第1号）	40万円追加 総額1億40万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）	150万円追加 総額1億6,280万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）	90万円追加 総額3,980万円	可決 (全員賛成)
平成29年度 小谷村歳入歳出決算の認定について	※詳細別ページ 特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
損害賠償の和解並びに額を定めることの専決処分報告	村有車輛による事故の賠償 3件	(報告のみ)
小谷村固定資産評価審査委員会委員の選任について	今井 規善氏（下里瀬） 高橋 正宏氏（伊折） 平成30年10月1日より	同意 (全員賛成)

9月定例議会 請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
経済委員会	「里見地区古民家移築再開発事業」に関する陳情書	小谷村白馬乗鞍里見地区住民代表 里見自治会長 大池 拓磨 前里見自治会長 佐々木秀隆	継続審議 (賛成多数)
総務委員会	国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める陳情書	長野県教職員組合 大町北安曇支部小谷単組 代表者 丸山 貴久	採 択 (全員賛成)
総務委員会	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情書	長野県教職員組合 大町北安曇支部小谷単組 代表者 丸山 貴久	採 択 (全員賛成)
総務委員会	私立高校に対する公費助成をお願いする陳情書	中信地区私学助成推進協議会 会 長 宮坂 高幸	採 択 (全員賛成)
経済委員会	公共事業発注および建築関連助成金事業に関する陳情書	小谷村建築業者協会 協会長 宮澤 富雄	採 択 (全員賛成)

議員発議

件名	審議結果
決算特別委員会の設置について	可 決 (全員賛成)
議会改革特別委員会の設置について	可 決 (全員賛成)
国の責任による35人学級の推進と教育予算の増額を求める意見書（案）について 1. 国の責任において、計画的に35人学級を推し進めるために、義務標準法改正を含む教職員定数改善計画を早期に策定し、着実に実行すること。また、そのための教育予算の増額を行うこと。 2. 国の複式学級の学級定員を引き下げること。	可 決 (全員賛成)
義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書（案）について 1. 教育の機会均等とその水準の維持向上のために必要不可欠な義務教育費国庫負担制度を堅持し、負担率を2分の1に復元すること。	可 決 (全員賛成)
私立高校への公費助成に関する意見書（案）について 1. 私立高校への就学支援制度の拡充並びに経常費補助の増額を行うこと。 2. 私立高校の教育条件改善のために施設、設備費の補助を行うこと。 3. 私立高校の保護者負担を軽減するための学納金の補助を行うこと。	可 決 (全員賛成)



委員会活動報告

総務委員会

小谷村成人式

8月15日

小谷村の新成人を祝う。

宮本河原に見守り付き

住宅の整備計画視察

9月5日

いわかがみを視察し、相澤所長から現状についてお話を聞いた。引き続き、見守り付き住宅の計画予定地を視察。細澤特産推進係長から説明を受ける。

保育園運動会

9月23日

1日順延したが、当日は晴天の下3歳未満児から年長児まで成長を感じながら、家族共々一緒に楽しめた。



小谷中学校総合発表会

9月28・29日

第40回の節目の総合発表会に参加。生徒たちの発表・取り組みに刺激を受け感動した。

(委員長 藤原 賢司)



小谷中総合発表会テーマはMemory

経済委員会

森林・林業・林産業活性化
促進議員連盟長野県連絡会

議平成30年度総会

8月23日(飯山市)

講演終了後、「飯山市文化交流館なちゅら」視察。

北アルプス山麓観光大学

講演

(株)日本旅行地方創生推進本部VJ訪日推進室長齋藤浩之氏より「世界が認めた北アルプス山麓スキー場の魅力・価値と今後の戦略」長野県観光機構大阪事務所所長代理兼誘客推進部長上村俊夫氏より「関西圏におけるスキー修学旅行等の情勢」パネルディスカッション

スキー産業の未来へ提言

パネルディスカッション

齋藤 浩之氏

上村 俊夫氏

長野県議会議員 宮澤敏文氏

松本空港国際化特別顧問

恵崎 良太郎氏

コーディネーター

長野県北アルプス地域振興局

局長 中村 正人氏

(委員長 吉澤 学)



砂防事業現地研修

議員視察・研修・交流会

松川村・白馬村・小谷村

議会議員研修会

7月19日(小谷村)

母池自然園内散策及び視察。新感覚アトラクション母池WOWの営業に向けての話在白馬観光開発の山岸さんより伺う。

糸魚川市・小谷村・白馬村

議会議員連絡協議会

8月10日(糸魚川市)

久保田郁夫先生より産学官連携推進事業についてご講演をいただき、その後新潟県立海洋高等学校を現地視察した。

白馬村・小谷村議会

議員研修懇談会

9月27日(小谷村等)

姫川砂防事務所所長木村智行氏より砂防事業についてご講演をいただき、通常砂防事業立の間・梨平・大草蓮、地滑り対策事業市場1号・八方岩において姫川砂

防事務所砂防課長小池修氏より現地の説明を受け研修をした。なお当日、御多忙中にも関わらず長野県議会宮澤敏文議員にご出席いただき、2019年4月開校予定の日本アルプス国際学園の概要等についてご講演いただいた。

大北市町村議会議員研修会

10月3日(池田町)

北アルプス医療センターあづみ病院7階やまなみホールにおいて、大町建設事務所所長清水孝二氏により地域高規格道路松本糸魚川連絡道路の進捗状況について講演を受け、その後北アルプス医療センター肩関節治療センター技師長高橋友明氏により肩こりと五十肩の予防と治療について講演を受けた。健康福祉課地域包括センター理学療法士齋藤恵子氏指導により池田町のびのびゴム体操の軽運動を行った。

村政を問う

30年9月定例会一般質問

【一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。CATVで公開されていますが、議会傍聴に来ませんか。】

〈質問項目〉（質問順）

1、吉岡 久人議員	①全国棚田サミット開催結果について ②語り合い事業について	(8ページ)
2、吉澤 学議員	①猛暑対策について ②子育て支援について ③母子家庭に対する支援について	(9ページ)
3、曾根原恵子議員	①住民福祉向上暮らし優先の施策を ②村民が村政に積極的に参加する体制を	(10ページ)
4、北村 利幸議員	①平成29年度村税の滞納対策について ②公共下水分担金の滞納対策について ③奨学金貸与について ④観光再開発事業について	(11ページ)
5、太田 武彦議員	①森林資源の活用について ②大学と連携した課題解決策の模索について	(12ページ)
6、藤原 賢司議員	①人口減少への施策 ②安心・安全の村づくり	(13ページ)

【＊ 一般質問のページは、質問議員が各自で作成をしています。】

棚田サミット結果について



吉岡 久人 議員

問 9月8日・9日、当村で開催された第24回全国棚田サミットの村民の盛り上がり。参加者及び宿泊状況、目的に対する結果、開催がもたらす小谷の農業変化は。

答 村長 開催には議員、県職員や多くの団体の方々からの協力で、サミット史上初の終日雨天でしたが、大きな事故もなく、参加者からは概ね好印象、高評価をいただく中、無事成功裏に終了することができ、心から感謝申し上げます。結果はまだまとまらないが、参加人員は当日発表され、全体で村内外から予想を上回る約650人。

体育館の駐車場に設置したブース出展者、案内等の協力者、昼食の弁当担当の商工会員、ツアー受入の現地案内人、情報交換会や交流会を引き受けていただいたホテル関係者なども合わせれば、800人以上の方々に関わっていた。参加者の多くは村内で宿泊され、通常一泊のところサミット運営上二泊された方も多く、村外のスタッフも多数宿泊され、たいへんうれしく思う。

棚田サミットは、当村と同じような中山間地での農業に携わる多くの方々との意見交換が大きな目的。棚田の景観を観光資源ととらえる地域もあれば、オーナ



8分科会（各2回実施）の一つ。「棚田の保全と整備」を考える80名余

ー制度など交流事業に活用する地域もあるが、どれをとってもそのみでは棚田維持はできないという課題は共通であると感じた。分科会でも直接支払事業などで、活発な議論となった様子だが、議論された意見の結集が国や県を動かし、い

ろいろな制度が生まれてほしい。この開催により当村の農業が変化するかといえば、すぐに形になるとは考えられず、これを機に、行政も

住民も農業に対しどのような気持ち、目的、目標を持つてこれから取り組めるかだと思う。農地、農業の維持は次の世代に繋げなければならず、年々農地が減少していく中、新たな取り組みが生まれていくことを期待する。最後に「また来たい」「小谷の棚田の冬景色も見たい」との意見も聞かれた。ツアーではジャンプ台や八方尾根まで範囲を広げ、村の観光はもとよりエリアの魅力もアピールでき、このサミットが単発イベントで終わらないよう「冬の棚田歩き」など、イベントを計画しながら参加者との交流を継続できたらと思う。

語り合い事業について

問 ①現在の実施状況は何か。集落名等も含めて実施済の内容は。②一人暮らしも多いが、戸数の満額の事業計画をして、事業実施中に亡くなった場合、計画の満額の交付金が

出されるか。③既に計画自体も断念する集落や実施済でも残額がある集落の同意が必要であるが、その合計額の範囲で、地区でこの事業を実施できるか。

答

村長 ①実施済み及び本年度実施地区は

全53地区の内約50%の26地区。②事業実施中に亡くなった方がいても、申請時に署名の同意数に含まれていれば満額交付する。③については申請できる。本年がこの事業の最終年度なので、できるだけ早く企画財政係へ連絡願いたい。

また、ステップ2の「地域づくり事業」について、署名の同意が増えれば、その人数を加えて申請でき、減らすことはない。申請から5年間で事業期間で、最終年度は平成35年度。一戸当たり10万円の補助金で、地区の事業同意世帯数により補助事業費が決まる。5年間の中で事業費の配分を自由に決めることもできる。

猛暑への対策・

子育て支援について



吉澤 学 議員

問 猛暑対策について。

答 村長 小谷村でも昨今35℃を超える猛暑が続いている。対策としてエアコン設置予定で小中学校及び保育園については、

全員協議会での説明で、順次設置する方向で進んでいる。また、教員住宅についても、検討をお願いしたい。

答 村長 特に検討していないが、リフォーム事業でお願いしたい。

なお、上限20万円以上の

事業となっているが、下限については検討したい。

問 子育て支援について

小学校のあったクラブ及び中学生の塾、併せた新設の場所・建物等の検討はできないか。

答 教育長 今のところ考えはない。現在の人数であれば現状で行いたい。

なお、いろいろな意見、考えがあれば検討したい。

問 母子・父子家庭に対する子育て支援について、子どもが、家庭の経済的負担で学業が疎かにならないよう対策をお願いしたい。

答 教育長 教育委員会が担当する支援としては、経済的理由により就学が困難と認められる児童

生徒への支援制度がある。毎年度初めに全児童生徒に申請書類等を配布している。今年度から新たに、子育て支援助成金として、高校生一人当たり年額3万円を助成することになった。住民福祉課の関係では、「児童手当」、「福祉医療」、母子・父子家庭を対象とした「児童扶養手当」などがある。



小谷の伝統芸能を継承する子ども達

語り合い事業（ステップ1） 29年～30年度 2か年分

申請地区名	地区数	内容
三ヶ村	1	意見交換会実施、支障木伐採
上手村	1	語り合い2回実施
曾田	1	意見交換会実施、公民館カーペットクリーニング、バス停付近花壇整備・植栽
南北雨中	2	意見交換会実施 小丸山会館へ発電機置場設置
島・塩坂	1	意見交換会実施
池原	1	意見交換会実施、キノコ原木伐採 自主防災組織の検討、先進地視察
伊折	1	意見交換会実施、作業場整備
下里瀬	1	意見交換会実施、生ごみ施設修繕
黒川	1	意見交換会

※ 8頁の参考資料になります

中谷開発委員会	15	地域の語り合いにより地区の6本の柱に基づき事業を計画、実施など
千国	1	地域の語り合い、自主防災組織の立ち上げ、共有地管理、伝統芸能の継承
計（11申請）	26地区	

（参考）ステップ2の「地域づくり事業」を申請している地区は3地区あります。

地域づくり事業（ステップ2）

申請地区名	地区数	内容
伊折	1	伊折生産組合の活性化 新たな農作物の栽培、販売など
島・塩坂	1	公民館周辺の環境整備（法面保護、漏水対策）、防災資材等の購入など
三ヶ村	1	なめこ栽培、作業同整備、支障木伐採など
計（3申請）	3地区	

住民福祉向上

くらし優先で



曾根原恵子 議員

子育て・高齢者・障がい者福祉の充実

問 学校給食の無償化を視野に入れた軽減制度を。給食費は子どもが2人、3人になると2倍3倍となる。

答 教育長 来年10月に予定されている消費税増税が実施された場合には、補助額を増やすか否か検討したい。

問 4月から広域介護保険料が引き上げられた。利用者の負担軽減のための村独自制度を。

答 村長 安定した財源確保のためやむを得

ない引き上げだ。村の裁量で市町村間の負担額に差が出るのは不公平。村独自支援を行う考えはない。

問 子どもの医療費については窓口無料化が実施された。障害者福祉医療費も窓口無料化に。

答 村長 福祉医療制度を持続可能な制度にするために現状維持とした。

問 村民の生活実態の把握をすべき。村民の約70%が所得200万円以下（全国平均は20%）統計が示す現状をみれば村民の生活の根底から支える施策が急務と思う。

答 教育長 低所得世帯には就学援助制度があり給食費の7割が補助される。また現在、児童生徒一食20円から25円の補助を

している。子育ては出生から親の責任において行われべきものと理解願いたい。

答 村長 生活実態は所得階層別統計だけでは判断できない。全国平均からすると厳しいが、小谷独特のくらしの豊かさもある。

観光再開発事業方針判断を12月まで延長

問 里見地区リゾート再開発の全村民に向けた説明会を。

答 村長 村民から要望を受けているので、10月以降の開催を予定している。

事業再検討の期間を9月までとされていたが、充分な話し合いがされていない現状で方針を出すのは困難と判断。12月まで延長することにした。

問 村は7月に事業の一旦中止を表明したが、以後、再検討した内容は。

答 村長 里見地区より「計画中止」の陳情書が出された。住民主導で計画を練るというもの、まだ地域からの計画が出されていないので再検討をしていない。

一方では「事業を進めて欲しい」との要望がある。会社おたりアセット主催の説明会に参加した7名他から村長宛で事業継続の要望書が出された。

「アセット」には説明の継続を指示し、しばらくの間

は成り行きを見て方針の判断をしたい。

《説明》

「株おたりアセット」とは おたり村内の観光事業の再生を行う。自治体である村が直接商業活動に関与できないため、株主として100%出資の会社を4月に設立。
代表取締役 野崎由紀子氏
取締役 荻澤 隆氏
資本金 1千万円



「戦没者追悼式」戦後、おたり復興を支えたご遺族のみなさま、ありがとうございます

平成29年度村税の滞納 対策について



北村 利幸 議員

対応策は。

答 村長 供用開始にあたり受益者分担金約

1億7,700万円を賦課したが、一部に時効成立が発覚し、平成24年度までに3,218万2,750円を不能欠損した。

平成24年度末時点の滞納未収金は530万4,500円で、以後この未収金の徴収に努めたが、徴収が進んでいない。

当分担金は、地方税の滞納処分により強制徴収できるものと定められているが、既に賦課額の大半が時効成立している者がいたり、宿泊業の縮小や廃業により未接続のままになっている等、社会背景を鑑みると、強制徴収には踏み切れず、請求書の送付や訪問徴収、分納誓約等による収納を行っている。

平成29年度末の滞納未収額は21件390万3千円となったが、今後も未収金の徴収に努める。

めることも検討をしていく。

奨学金貸与について

問 貸与金額、返済金額はどのようになっているか。

答 教育長 平成29年度の奨学金貸与者は6名で、貸与金額の総額は438万円。

償還者は合計13名で、償還金額の総額は512万5千円。すべて返済されており滞納はない。

基金現在高5,688万8千円、年度中に基金の積み増しや取り崩しはない。

問 借入希望者の事情により一括、月毎等の借入れにできないか。

答 教育長 借入者の事情により貸与条件を検討する。

していただく等の対応をしている。

問 不能欠損額が多額になつては理由は。

答 村長 執行停止して徴収できないことが

明らかなもの及び時効経過によるものについて不能欠損を行った。

問 長野県滞納整理機構に委託した徴収実績、今後の委託予定は。

答 村長 平成29年度は移管案件無し。徴収

困難な案件については、必要により長野県地方税滞納整理機構へ移管を行う。

公共下水分担金の滞納対策について

問 公共下水道事業の分担金の徴収率は18・

9%と低率となっている。滞納となった要因・経過と

寄付金は、平成24年度までに時効成立により不能欠損した未納者21名より1,584万4,250円相当の寄付申出があつた。

問 観光再開発事業について

里見地区から陳情書が提出されたが、今後の方針は。

答 村長 全体説明会は2回開催した。今後

も地域から要望があれば開催する。おたりアセットにも独自に説明会を開催するように指示をした。

問 再開発希望地区に投資をすべきではないか。

答 村長 村内の観光地は後継者問題や経営者の高齢化などの問題がある。

他地区から事業を進めて欲しいとの話がある。希望がある地区へ事業展開ができるか検討をしている。

おたりアセットが進める事業について理解をいただいている地区を優先して進

森林資源の活用について



太田 武彦 議員

問 ①小谷村森林整備計画書による整備活用の推進状況は。

②森林資源活用について今後どのように取り組むか。
③森林資源の活用について研究機関等に委託して活用方法等を探ることは考えているか。
④資源の価値の保持、観光活用術を考え、かつての搬出道を整備してはどうか。

答 村長 ①平成28年に10年を計画期間として策定したもので、長期的視点に立った森林づくり構想である。その中で、低迷する木材価格の動向調査、活用方法の研究調査をすることとなっている。

②本村の場合、搬出経費が木材代金を上回る場所がほとんどであり、中谷地区にある、村行造林で試算したところ約340万円の赤字になるとの結果で、契約の期間延長をした。

現在、市場において高値取引されている樹種は栃やキハダ等の雑木であり、人工林については、積極的取り組みをすることはできず、木材価格の上昇に期待するばかりである。

③大学を含めさまざまな研究機関に研究依頼をすることは可能だ。提案された利活用についても赤字になる場合は実行できない。

さまざまな樹種を活用した地域活性化につながるような提案をいただければ委託価値がある。その点では、メイプルシロップづくりは代表的なものだ。
④廃道となっている搬出道

がどこにあるか現状では把握していないが、調査し、多額の費用が必要な場合、整備しても林業以外の効果も含め最終的に赤字になるものは整備すべきではないと考えている。

なお、森林環境譲与税（仮称）の創設が決まっております。森林整備が進むことが期待されている。木材利用の促進、普及啓発にどのように活用できるか検討する。

問 小谷の杉の特徴を生かし、防腐材、断熱材、不燃材等への活用を検討してほしい。

大学と連携した課題解決の模索について

問 ①課題を研究課題とし、行動研究してもらい、提言をいただくため、積極的に大学等と連携し課題解決の道を探ってはどうか。

②近隣に大学が存在しないことから、滞在拠点の形成

が必要と考えるがどうか。

③村内各地域の課題解決に提言等を活用することによって、村の進める地域づくり事業と相乗し効果が上がると思われるがどうか。

答 村長 村が抱える課題を研究課題とし、積極的に大学と連携し、課題解決の道を探ることは、

村づくりにおいて必要なことと認識している。しかしながら、村と大学との信頼関係や、求めるものと同じことが必要であり、簡単にどここの大学とでも連携はできないと考えている。伊折地区を拠点に大学生が村内を研究フィールドとして研究活動に取り組んでいる。この研究活動を通じ、将来連携協定を締結したいと考えている。それには、地域課題の明確化が求められている。大学と連携すれば何とかなるではなく、地域自体も主体的に参加し、実践活動を通じ解決を試みる必要がある。まずは、語り

合い事業等を活用し、地域の課題を明確にし、問題意識や当事者意識を共有することが必要だ。そのうえにたつて、相談してほしい。大学連携のインフラ整備については、村内に大学施設を有する大学はその施設の利活用を検討していただき、その他の大学については、宿泊施設への助成、お試し住宅の活用、計画中のシェアオフィス等が滞在拠点として提供できると考えている。また、研究施設等は、古民家、既存の施設を考えている。

問 対馬の域学連携を参考に村づくりができないか、検討してほしい。



人口減少への施策



藤原 賢司 議員

後の施策は。

答 村長 地域内経済循環を図る「おたり54プロジェクト」事業など50

の事業を実施しているが、なかでも「語り合い事業」「地域づくり事業」の補助事業は、「地域の結びつきの強化」「地域力の向上」など、コミュニティ機能の維持につながるものと期待している。

問 限界集落の中の独居高齢者や超高齢者宅の安全対策や買い物難民対策、医療介護対策など、生活していくための対策は。

答 村長 現在、日常の安否確認や急病、緊急時に備えて、一人暮らしの高齢世帯に緊急通報システムのを設置している。宮本河原に見守り付き住宅の整備計画を進めているが、「安心要素・生活支援・医療介護サービス」を充実させ、独居・高齢世帯の方

が住み慣れた小谷村で暮らし続けられる環境を整える必要があると考えている。

問 村長として限界自治体にならないために、里見地区の他にも施策を考えているのか。

答 村長 村内の観光地は後継者問題や経営者の高齢化など多くの問題があることから、里見地区から手を付けたいと考えているが、現在足踏みしている状況だ。他地区からの要請もあり検討はしているが、他地区では宿泊や飲食業施設を集中して取得することは現状困難であることから、事業者本人からの申し出により、体系的に全体需要を分析しつつ決定して、全体の利益に資するような経営を行えればと考えている。

安心・安全の村づくり

問 防災力の向上を図るために、ネットワークづくりを進める取り組みが必要だと思いが考えは。

答 村長 大北の他の自治体が実施しているように、自主防災連絡会議といったネットワークの構築を進め、村全体の防災力向上に努めたい。

問 気象情報、避難勧告などの情報、避難所開設情報等を携帯電話やパソコンにメールで配信する、防災行政メールの活用を実施すべきだ。

答 村長 安全で安心な生活を過ごせる配信サービスの一つだと思いが、今後、導入するか研究したいと考えている。

問 避難所生活では、要支援者に対応するため、避難所周辺住民、近隣施設への協力依頼や応援など、事前に協議しておくことが望ましいのでは。

答 村長 避難所運営においては、要支援者に配慮した専門的な知識・資格・支援も必要であり、村内には、社会福祉協議会などの団体があるので、村

防災会議等において連携方法を模索したい。

問 現在の指定避難所である多目的ホールでは、冷暖房など施設的な問題点が懸念される。

答 村長 現在の場所での村民のより所となる多目的施設として、建て替えを計画すべきではないか。

問 現在の場所での村民のより所となる多目的施設として、建て替えを計画すべきではないか。

答 村長 現在の場所での村民のより所となる多目的施設として、建て替えを計画すべきではないか。



わたしのひまわり

特産推進室

水野 聡子

特産推進室で取り組んでいる加工貯蔵施設整備事業で、商品の開発を進めています。今年に入り、「辛いで酢」「こしょう漬け」「山うどの和風ピクルス」の3商品が販売開始となりました。村内の農産物を扱うことにより農産物の利用が進み、村内産の商品を販売することで、商品自体の売り上げによる利益だけでなく、全国各地に商品が届けられていくことで村のPRになります。小谷村で3年間過ごしましたが、知れば知るほどいろいろな出会いがあり、素材の可能性がたくさんあることに気づかされる毎日です。

原料となる農産物



の、生産しやすい仕組み作りからが、加工貯蔵施設整備事業だと思っています。その上で、皆様から喜んでいただける商品を作っていくことができれば何よりです。そのためには村の気候風土をよく知ることが基礎になります。村に長く住まれている先輩の皆様から、今後ともご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

梅池

松澤 和也

小谷村のNICEな景色にいつも感動しています。

仕事柄、広い小谷村のいろんな場所に行くことがあり四季折々の鮮やかな景色を見ることが出来ます。もともと、スキーを続けたくて小谷村に帰ってきた私ですが、改めて小谷村の美しさを感じ、好きになっています。

そんな気持ちを持った仲間を集めて作ったのが、小谷村青年会「OTARUKU」です。みんなに小谷を知ってもらいたい、発展させたいという愛村心を持って活動しています。今年もできる限りではありましたが、地区のお祭りに屋台の出店を行いました。自分たちの地区とは違うお祭りは新鮮で、その地区の人達との交流をし、感謝



の言葉もいただきました。微力ではあると思いますが地域を盛り上げることができたと思う感じがしました。

小谷村の先輩方には、若者の愛村心に火を灯すように小谷の素晴らしさを伝えていただき、その火に薪を焚べるような暖かい指導をしていただきたいと思います。

編集後記

昨年12月議会において、「中土村誌」が教育委員会に保管されていることを知った。この「中土村誌」は筆書きの三分冊になっており、内容に目を通してみると、この村誌は、北安曇校長会で郷土史編纂の指示があり、大正3年正月から着手し、大正5年8月完成したものであり、その内容は、初めて知ること、なるほどと、納得することばかりだ。今、村では、次々と大型プロジェクトが提案され、議会も、明日の小谷の隆盛のため、しっかりと審議し、結論を出さなければならぬ。その意味からも、議会内容を記した議会だよりも、「中土村誌」のように将来読み返し、ああそうなのかな、なるほどと思えるような内容となることを目指さなければならない。

(編集委員 太田記)